京都祇園祭の山鉾行事歴史資料調査　Ⅱ

公益財団法人祇園祭山鉾連合会

刊行にあたって

公益財団法人祇園祭山鉾連合会 理事長　木村　幾次郎

新型コロナウィルスの感染が収まらない令和４年の春を迎えました。一昨年は、祇園祭山鉾行事は町内神事以外全て中止。昨年は半数の山鉾が居祭として山鉾建てを行いましたが、残念ながら巡行は中止として令和三年度の祇園祭山鉾行事を終えました。梅の花が満開となり、春本番となった今、本年こそは通常の祇園祭山鉾行事をと願ってやみません。さて、祇園祭の近代歴史資料調査・取りまとめも諸先生方のご尽力のおかげで二年目を迎え、『京都祇園祭山鉾行事歴史資料調査　Ⅱ』を刊行することとなりました。第一章では、連合会に保管されています明治期の資料の調査結果を、そして第二章では、新聞記事に見る山鉾行事の近代として、今世界の人々の関心事となっています、感染症に関する調査報告を主題として取りまとめていただきました。新型コロナウィルス感染症の終息の後、この調査結果が、次代の祇園祭催行に際して一助になることを願う次第です。

凡例

・本書は、公益財団法人祇園祭山鉾連合会が令和三年四月から令和四年三月にかけて実施した、歴史資料調査の報告書である。

・本事業の調査体制については、巻末を参照されたい。

・本書で報告する資料は、祇園祭山鉾連合会所蔵「祇園祭山鉾連合会文書」と『京都滋賀新報』、『日出新聞』、『京都日出新聞』所載の記事である。

・調査に当たっては、京都新聞社より格別のご高配を賜った。

・資料の翻刻については、別に凡例を掲げている。

・本書の執筆・編集は、村上忠喜（京都産業大学教授）と村山弘太郎（京都外国語大学准教授）・今中崇文（京都市文化財保護課文化財保護技師）が行い、祇園祭山鉾連合会事務局と安井雅恵（京都市文化財保護課美術工芸・民俗文化財係長）・福持昌之（京都市文化財保護課文化財保護技師・主任）が補佐した。

・本書の掲載写真は、写真工房えむ（真渕紳一）が撮影した。

・本事業は、文化庁の令和三年度地域文化財総合活用推進事業（ユネスコ無形文化遺産）の助成を受けて実施する「祇園祭の文化遺産総合活性化事業」の一部である。

目次

刊行にあたって　公益財団法人祇園祭山鉾連合会 理事長　木村幾次郎……1
はじめに　村上　忠喜……4
第一章　京都祇園祭の山鉾行事の近代資料
『明治九年鉾町々神事諸用記載帳』解説　村山弘太郎……6
（翻刻）……10
（写真）……42
第二章　新聞記事に見る山鉾行事の近代
祇園祭と感染症　今中　崇文……90
祇園祭とコレラ関連記事（翻刻）……94
調査体制……109

表紙『明治九年鉾町々神事諸用記載帳』

はじめに

村上　忠喜

令和二年（二〇二〇）の初春からはじまったコロナ禍の混乱の中で準備がすすめられ、第一回の委員会を開催できたのは、第二波が収束し、第三波がはじまろうとする同年十二月の年の瀬であった。以後、コロナ感染者数の波の狭間で、できる範囲での調査を続行してきた。難しい状況の中でも調査を進められた事務局や、調査に協力いただいた関係者の方々に、冒頭にお礼を申し上げたい。巻末に記されている通り、昨年度に続き思うような調査もできなかったことは残念であるが、何よりも、令和二年、令和三年の二か年にわたって、山鉾巡行自体ができなかったという非常事態であり、山鉾連合会にとっても苦渋の二年間であったのである。

外部調査がままならなかったことにより、今年の事業報告も、祇園祭山鉾連合会所蔵の記録類の翻刻となった。翻刻された『明治九年鉾町々神事諸用記載帳』は、明治九年（一八七六）から明治三十年（一八九七）にかけて、各年の鉾当番がその年の祇園祭山鉾巡行に関わる事務的な事項を記録したものである。詳細は村山委員の解説に委ねるが、同記録は、明治期における巡行のための神事当番の記録を綴ったものである。

山鉾連合会が存在しなかったこの時期に、鉾組と山組というつながりがあったことは昨年の事業報告にも記した。この資料が収められていた保存箱の表には「神事鉾町当番箱」、裏に「明治第九年丙子七月　長刀鉾町、函谷鉾町、月鉾甲、鶏鉾甲、放下鉾町、岩戸山町」と墨書されていることからも、鉾組の当番町がその年の巡行に関する記録を認め、それを次年の当番町に箱ごと送るという慣行があり、途中の経緯は不明ながら、山鉾連合会に永く保管されてきたものである。

いまひとつの資料は、コロナへの恨みも込めて、明治期のコレラ感染症に対して、祇園祭や山鉾行事がどのように対処したのかという記事を、京都新聞の前身である『京都滋賀新報』『日出新聞』『京都日出新聞』から抜粋して掲載した。現在のコロナ感染症への対応と比較して読んでいただければと思う。

調査の方は令和三年度には、わずか一回しか委員会を開催できなかったが、祇園祭山鉾連合会所蔵の文書以外としては、祇園一力亭の杉浦家の文書をお見せいただくことが叶った。今後本格的な調査に入る予定である。また白楽天山町文書を閲覧し、一部写真撮影をはじめることが出来たことも望外の喜びであった。来年度は調査のスピードをあげなければならないし、それが可能となるような社会環境が到来することを強く望む次第である。